

## I 学校の概要

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現推進モデル校事業

### 観音寺市立大野原中学校

#### ◆生徒数及び教員数

○生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援	全校
3学級 92名	3学級 87名	3学級 86名	2学級 8名	11学級 273名

○教員数 24名

#### ◆学校の特色

本校の学校教育目標は「個性豊かで、主体的に考え行動する生徒の育成」である。そして、これまでの学校づくりスローガン「『ときめき』にあふれ、個性が光り合う、あったかい学校づくり」から、さらなるステップアップとして、今年度より「『歓』『敢』『寛』にあふれる ともに今を輝く学校づくり」に変更した。つまり、「ときめき(歓)」「挑戦(敢)」「やすらぎ(寛)」のある教育活動を生み出す中で、生徒一人ひとりの個性や主体性を確実に伸ばそうとしている。

本校の生徒は、素直さのある前向きな生徒が多い。令和7年1月のアンケート調査では、「学ぶことが楽しいと感じる生徒」82.7%、「授業で話し合うことで、考えが広がったり深まったりする生徒」91.3%、「自分には良いところがあると思う生徒」90.5%、「学校生活を通して成長していると思う生徒」90.5%など、年々増加傾向にあり、どれも高い割合を示している。本校の特色ある教育活動である勤労生産学習(米やタマネギづくり)や自主的な合唱団練習にも積極的に参加している。保護者の方々も大変協力的である。

## II 研究主題等

研究主題

### 「ときめき」のある授業づくり ～主体的に学ぶ生徒を育てる！～

#### ◆研究主題設定の理由

本校の学校教育目標に迫るため、学習においては、何より学びに向かう意欲・関心を高めることが大切である。そして、その意欲・関心をエンジンにして、主体的に学習に取り組む態度を生徒一人ひとりに培いたい。そこで、研究主題を「『ときめき』のある授業づくり～主体的に学ぶ生徒を育てる！～」とした。これまで本校では、ICT機器の活用や学び合い等を通して、授業の中に感嘆符(!)や疑問符(?)が生まれるしかけを教師が意図的に仕組み、生徒が「なぜ? どうして? なるほど! できた!」といった「ときめき」を感じる授業づくりに取り組んできた。今後は、さらなるステップアップとして、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の学習展開にも挑戦し、生徒一人ひとりが主体的に学んでいく態度の育成を図りたい。



### Ⅲ 研究実践

#### ◆指標設定と達成に向けた取組み

##### 1 (生徒質問紙)

授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表する学習活動に取り組んでいますか

指標 「①取り組んでいる+②どちらかといえば取り組んでいる」の合計



#### 指標の達成に向けた実践

##### (1) 研究授業及び討議の実施①

###### ◇ 1年生社会科 (6月)

「なぜ日本は東アジアの国々との関わりをもとうとしたのか」という単元を貫く学習課題を設定し、課題を解決していく授業実践である。第1～3時でキーワードとなる言葉を学習し、第4時では学習したキーワードとそれに関連する資料を活用して課題の解決に取り組んだ。

生徒が、課題解決に必要なだと考える資料にアクセスできるよう、ICT機器等を活用した。また、学習をまとめるワークシートは記入する自由度を高くすることで、生徒が自分の思いを表現しやすくするよう工夫した。



【必要な資料にアクセスする生徒】

##### 1. 資料から分かること

- 自分が選んだキーワードについて資料から分かることをまとめよう。

<b>鉄</b> 鉄の延べ板 出土地は、 新羅や加羅 が多い	<b>中国皇帝と倭王の関係</b> 支配、資源、安全、保障 朝貢=みづものを 使者を送る。
<b>金印</b> (10世紀) 57年に倭国の使が みづものを持参し 遣ら来て、金印 を送る。	<b>地位</b> 古墳の大きさ=地位 の高さ 西日本に古墳① 中国皇帝が決める
<b>文字</b> 5世紀 日本の名 渡来したが 伝えた。	いね作

【自分の選んだキーワードでまとめたワークシート】

##### (2) 外部講師による講話・演習

###### ◇ 香川大学教育学部 浅井 哲司先生

「個別・協働・全体の学び 組み合わせる効果をどう高めるか」を演題に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の概念や先行実践を中心に講話をいただいた。学力や認知の特性等、多様な子どもたちを誰一人取り残さないという理念を全教員で再確認した。

また、本校の実践から見えてきた10のポイントから、自身の授業について振り返り、他の教員と共有する演習をいただいた。話し合った内容を、「教師のねらい(しかけ)が適切に設定されている」「生徒の変容を授業を通して捉える」「成果や課題がねらい(しかけ)と関連させている」に整理していただき、今後の実践をより良くしていくためのご示唆をいただいた。

## 2 (大野原中学校生徒アンケート)

授業で、「えー!」「うあー!」「なんでー!」と心が動くことがある

指標 「①はい+②どちらかといえばはい」の合計



## 3 (生徒質問紙)

学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり深めたりすることができていますか

指標 「①できている+②どちらかといえばできている」の合計



### 指標の達成に向けた実践

#### (1) 授業実践に向けた研修や、振り返りの充実

授業で生徒の心が動くような、「ときめき」のある授業づくりに取り組んで4年目となる。そして、これまでのノウハウを『ときめき』につながる教えの巧みな技』としてまとめている。今年度はラミネートしたものを全教員に配布し、日々の授業の中で疑問符(?)や感嘆符(!)が生まれるしかけをつくり、学習場面のどこで生徒の心を動かすのかを意識できるようにした。

各教員が「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識した実践を年間2回程度行い、実践したことを本校独自の様式である「大中学びのときめきシート」にまとめるようにした。計画の段階で、どのように指導の個別化や学習の個性化を図るのか、協働的な学びを位置づけるのかをポイントとして示し、実践後はそのポイントがどのように活かされたかを、生徒の姿を中心に振り返るようにした。

#### (2) 研究授業及び討議の実施②

##### ◇ 1年生国語科(10月)

「新入生のための大中ガイドブックをつくろう」という書くことの授業実践である。単元を通して「新入生に思いを伝えるために大切なこととは？」を課題に設定し、ガイドブックの文章を作成する中で課題の解決を図っていく単元を構想した。

『ときめき』につながる教えの巧みな技』の「引き込む」を意識し、書く意欲を高めるために項目を選択させたり、自分の学び方に合うように学習形態を選択させたりした。また、他クラスの生徒が書いた文章を推敲する活動を通して、自分の文章を見直す視点を習得できるようにした。



【教師と議論する生徒】



【討議で共有する様子】

◆特徴的な取組み

(1) 単元全体を通した記録や振り返りができる「大中学びのときめきシート」の開発

先述の通り、実践を「大中学びのときめきシート」にまとめている。本校では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の要は単元構成にあると考えているため、単元全体を通した記録としている。シートを活用することで、計画段階から授業改善の意識が働き、実践後は生徒の視点で授業を振り返り、次の実践へとつなぐ手立てにもなっている。

令和7年度 大中学びのときめきシート 【技術・家庭科・2年】

指導者（ ）

「自分に合ったお金の管理方法は何かしら」

単元名(題材)

「私たちの消費生活」(計画的な金銭の管理)

探究課題や活動テーマを示す。

単元における「個別最適な学び(個別化・個性化)」「協働的な学び」のポイント

- 自分の金銭の扱いを客観視させるために、校外学習(大阪・関西万博)時の買い物を学習と結びつける。自分が買いたいものについて購入計画を立て、実行し、記録を付けて振り返らせることで、計画的な金銭管理の必要性について考えさせる。(個性化)
- 自分の金銭管理を評価するために、校外学習の1~2週間後に購入した物の満足度とその理由を考えさせる時間を設ける(個性化)
- 自分でできる金銭管理を模索させるために、おこづかい帳に収支を記入する、レシートを貼って収支の合計やポイントを把握する、その他、から記録の付け方を選択させる。(個別化)

単元における「個別最適な学び(指導の個別化と学習の個性化)」と「協働的な学び」のポイントを挙げる。

学習の実践

【生徒の振り返りから】

- レシートを貼って収支を記録する方法でお金を管理してみて、自分がどのお店でいつ買ったのかわかりやすく、ポイントなども一目で分かったので、この方法が自分に合っていると思いました。
- ICOCAで支払ってみて、残高が分かりにくかったです。自分は残高の確認が苦手なので、少しでも管理がしやすいように、現金払いで支払いをしていきたいです。
- 今回、レシートを貼って管理をしようとしたけど、自分はすぐにレシートを無くしてしまうことが分かったので、アプリなど記録が保存されるものを使いたいと思いました。

【成果物】



単元での学習の実際を示す。成果物や生徒の振り返りなど、授業における生徒の姿を残す。それを受けて、上に挙げた単元における「個別最適な学び」「協働的な学び」のポイントがどのように効果的であったかという視点で授業を振り返る。生徒の姿から振り返ることで、自分の授業を客観的に見つめ直し、授業改善につなげられるようにしている。

【成果〇と課題●】

- 〇 買い物の場面を校外学習に設定したことで、周囲の影響を受けたり短時間での判断を迫られたに自分がどのような選択をするかが振り返りに表れた。
- 〇 後日評価を行ったことで「購入し忘れて物が有り、次からは買い物メモをつくりたい」「なんで5千円するハンディファンを買ってしまったのか後悔した」「なんでやねんサングラスを買ったが、地元で着けのには恥ずかしくて使わなかった」「後で買おうと思っていたら最後の一個がなくなってしまい、絶対欲しいものは早く買おうと思った」など、自分の消費行動を振り返り、改善しようとする姿勢が見られた。
- 〇 初めておこづかい帳を付ける生徒が殆どで、金銭を管理する方法を一つ身に付けた生徒が増加した。
- キャッシュレス化や「ポイ活」の普及に伴い、支払い方法の複雑化している。アプリケーションやデータ上で金銭の管理を行えるものも普及しており、ICTを活用した金銭の管理についても扱う必要があると感じた。

(2) 県外教育視察(静岡県御前崎市立浜岡中学校、静岡県富士市立田子浦中学校)

教員2名が静岡県の2校に訪問し、主体的に学習する生徒の育成の視点で教育視察を行った。

浜岡中学校では、生徒を信じて学びを委ねることを全教員が共通理解して授業づくりを行っていた。生徒同士が協力して学び合い、自分に合ったペースや学び方を選択して授業に取り組んでおり、生徒が主体的に学習に取り組める環境が整備されていた。

田子浦中学校では、座席を男女市松模様のコの字型になるように配置し、学び合いがしやすい環境を作っていた。学校全体で実践できるように、年度初めの校内研修において教職員で共通理解するとともに、全校集会で生徒にも目指す授業の姿を周知していることを伺った。

視察した内容を校内研修で発表し、本校において取り入れられるものや考え方について共有した。学習への主体的な取り組みを促すような環境づくりに励んでいきたい。

## IV 研究の成果と課題

### ◇ 成果（研究授業討議・香川の教育づくり発表会、大中学びのときめきシートより）

#### 生徒に学びを委ねる場面の設定

- ・ 授業の長い時間を生徒に委ねたことで、個別最適な学び、協働的な学びが実現していた。
- ・ 選択肢（問い、学習材、学習方法等）を用意することで、自分のペースでじっくりと学習できていた。
- ・ 考えの広がりだけでなく、自分の学び方を多面的に考えられるようになったことを自覚していた。
- ・ みんなで動画を見ながら動きを確認する、得意な生徒が教える、一人で黙々と進めるなど、自分自身に合う方法で技能の習得に向けて取り組んでいた。

#### 学習課題・題材の工夫

- ・ 概念の獲得につながる課題設定、教科の見方が盛り込まれた学習課題で、ねらいに迫ろうとしていた。
- ・ 毎時間の振り返りを生かすことで、子どもの課題意識をつなぎながら単元を展開できていた。
- ・ マンガや校外学習など、身近なものを教材化することで、主体的に取り組む様子が分かった。
- ・ 二項対立的な学習課題にすることで、苦手意識がある生徒でも自分の意見を持つことができていた。
- ・ 「単元を貫く課題」の設定、及びその内容によって、単元での課題解決意欲を大きく左右する。

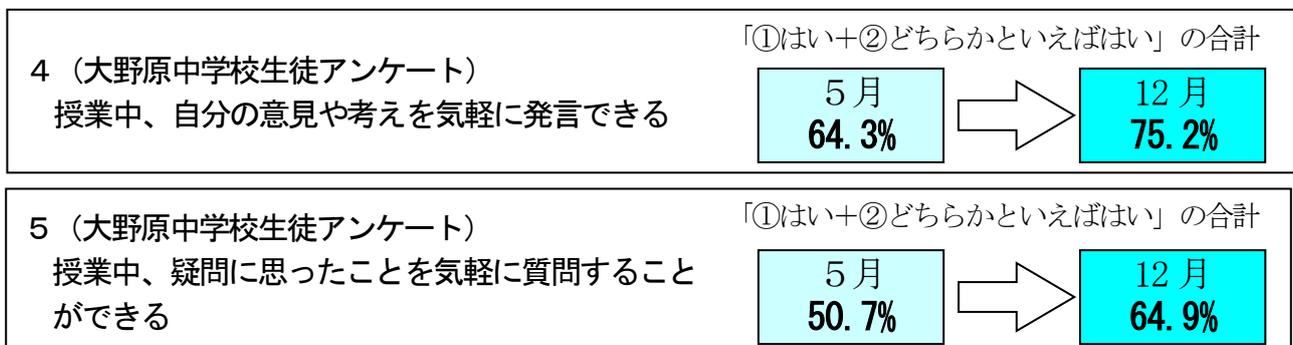
生徒に委ねる学習場面の設定や、学習課題・題材の工夫において成果が見られた。また、「大中学びのときめきシート」にまとめることが、授業改善に効果的であったと考える。回数を重ねることで自己の指導力の向上を実感することにもつながる。負担になりすぎないように内容を精選して継続していきたい。

### ◆ 課題（研究授業討議・香川の教育づくり発表会、大中学びのときめきシートより）

- ・ 生徒に委ねる部分と教師が介入する部分のバランスが難しいと感じた。どのように深めるかの手立てを持っておかなければならない。
- ・ グループでの活動において、他の生徒に頼り切りになる生徒が見られた。
- ・ 生徒同士では気付くことができない、見落としがちなどをどうやって気づかせるか。
- ・ 資料の精選が難しい。資料を見て、考えることで手いっぱいになっている生徒もいた。
- ・ 共有された考えを分類・整理する視点も準備していたが、タイムマネジメント等の関係で、関連付けるには至らなかった。

学びを生徒に委ねることの効果を感じてはいるものの、学びをどのように高めたり深めたりするかについての手立てや意識がまだ不十分である。「活動あって学びなし」に陥らないよう、効果的な教師の介入場面を想定しながら単元を構想していく必要がある。

また、生徒アンケートからは、次のような結果が出た。



授業中に自分の思いを素直に表現できていない可能性や、そもそも自分の考えを持っていない可能性がある。生徒が自分の考えをしっかりと持てるような手立てや、対話や学び合いの場面をどのように活性化させていくのかについても研究・実践していきたい。